



北区

面積20.61km²
 世帯数199,864世帯
 人口351,390人
 (うち外国人).....21,297人
 予算1,622億円
 職員数2,788人



コミュニケーション・マーク
 花いっばいの元気な北区を象徴するマーク。「さくら」の花びらで「北区」のイニシャル「K」をデザインしている。

住めば、 北区

シティプロモーション・ブランドメッセージ
 「住めば、北区東京。」
 「住めば都(みやこ)」や「北区に住めば?」のどちらの意味も内包し、北区に住むというメッセージを直接的に表している。



国立国会図書館蔵
 渋沢栄一(1840~1931)
 「日本資本主義の父」と呼ばれ、多くの株式会社を設立・育成するとともに、社会福祉や教育の発展、民間外交に尽力し、社会の繁栄と近代化を目指した。北区との関わりは、明治8(1875)年、王子に製紙工場を操業したことに遡る。明治12(1879)年に北区・飛鳥山に別荘として邸宅を構え、61歳から亡くなる91歳まで本邸として暮らした。

歴史・見所・名所

江戸時代の北区域は、飛鳥山の桜、滝野川の滝浴びと紅葉、さらに王子稲荷詣でなど、変化に富んだ自然と豊かに広がる農村地帯、緑あふれるうるおいの場所として、四季を通じてたくさんの人々が訪れる行楽地でした。これらの名所は、浮世絵の画題として多く描かれており、当時の賑わいをうかがい知ることができます。

明治時代以降は軍施設や軍需工場が次々に設置され、軍都として栄える一方、田端周辺に小杉放庵、板谷波山らの芸術家や芥川龍之介、室生犀星らの文士が多く住まい、昭和初期まで続いた田端文士芸術家村が形づくられました。

現在、飛鳥山公園には国指定重要文化財である旧渋沢栄一郎の晩香廬と青淵文庫、渋沢史料館、北区飛鳥山博物館、洋紙発祥の地にちなむ紙の博物館が並び、西ヶ原のジョサイア・コンドル設計の建物とバラで名高い旧古河庭園とともに、多くの人が訪れています。また、軍の史跡でもある中央公園文化センターはその端正なたたずまいがロケーションスポットとして人気が高く、造兵廠レンガ倉庫は平成20(2008)年に北区立中央図書館としてよみがえるなど、歴史が今に息づいています。

概要

武蔵野台地の縁辺部から東京低地へと連続した地勢を有する北区は、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた、緑豊かな自然が魅力のまちです。これら河川周辺は憩いの空間として整備されており、週末にはスポーツやレジャーを楽しむ多くの人々で賑わっています。

一方、JRの駅が都内最多の11駅あり、加えて、地下鉄・都電が区内各所を走っているため、交通の利便性が抜群です。また、子どもが安心して遊べる公園が数多く設置され、商店街も活気があり、暮らしやすい環境がそろうています。

このような北区の持つ個性や魅力をわかりやすく演出し、そのイメージを形成するため、北区では、「北区イメージ戦略ビジョン」に基づき、若手職員と地元大学生による活動、北区アンバサダー事業、内田康夫ミステリー文学賞などを実施しています。さらに、少子高齢化の進展や人口減少を見据え、通勤通学圏の子育てファミリー層・若年層の定住化や区民の地域に対する誇りや愛着の醸成を目的とした「北区シティプロモーション方針」を策定し、生活に便利なまち・住み心地のよいまち北区の、戦略的・効果的な情報発信にも力を入れています。

令和6(2024)年には、北区・飛鳥山に居を構えた渋沢栄一翁が新一万円札の顔となることが決まり、新紙幣発行に向けて区内で盛り上げを見えています。北区では「東京北区渋沢栄一プロジェクト」を立ち上げ、公民連携のもと、様々な取組みを展開し、機運の醸成を図るとともに、渋沢翁ゆかりの団体や自治体とも交流を深め、渋沢翁を通したプロモーションを実施しているところです。

主要課題・将来展望

令和2(2020)年3月に策定した「北区基本計画2020」では、引き続き最重要課題として位置付けた「地域のきずなづくり」、「子育てファミリー層・若年層の定住化」の実現を目指し、3つの優先課題を中心とした取組みの充実を図ります。また、シティプロモーションに一層力を入れるとともに、北区の新たな魅力や価値を創出する施策に積極的に取り組みます。

【地域のきずなづくり】

区民一人ひとりがゆとりと豊かさを感じられる北区とするために、だれもが「我が事」として地域や地域の課題に関心を持ち、お互い支えあう「地域のきずなづくり」を推進する施策を展開していきます。

【子育てファミリー層・若年層の定住化】

出産前からの切れ目のない支援による子育て施策を推進するとともに、北区で学び、働き、暮らし、育てるための「子育てファミリー層・若年層の定住化」の実現を目指します。

3つの優先課題

〇「地震・風水害に強い安全・安心なまちづくりに全力」で取り組むこと

大規模災害を想定した地震・風水害対策をはじめ、災害に強いまちづくりを一層推進し、区民の生命、財産を守ることに全力で取り組みます。

〇「長生きするなら北区が一番」を実現すること

人生100年時代を見据えた健康長寿社会の実現に向け、いくつになってもだれもが自分らしく輝き、活躍できる社会の実現を目指します。

〇「子育てするなら北区が一番」をより確かなものにする

妊娠前から学齢期まで、それぞれのステージに寄り添ったきめ細やかな支援や、子どもたちの健やかな成長をサポートする体制の充実に取り組みとともに「教育先進都市・北区」をさらに前進します。

新たな北区基本構想の策定

現在の基本構想は、平成11(1999)年、21世紀の北区を住みよい魅力あるまちにしていくために、「ともにづくり未来につなぐ」ときめきめのまち「人と水と緑の美しいふるさと北区」を将来像に掲げ策定し、区民とともに、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。

策定から20年以上が経過し、テクノロジーの発展や人口構造の変化、気候変動、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、わたしたちの生活や区政を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような将来の予測が困難な時代においても、さまざまな課題を区民はもとより、北区で働き、学び、憩い、活動する人とともに乗り越え、北区への誇りと愛着を持つ人の輪を広げていき、将来にわたりすべての人が自分らしく輝くことができる、より一層住みよい魅力ある持続可能なまちをめざして、令和5(2023)年度に区議会の議決を経て、新たな基本構想を策定する予定です。



飛鳥山公園
八代将軍徳川吉家が1,270本もの桜の木を植える、庶民にはじめて「お花見」を開放した公園。



北区立中央図書館
大正8(1919)年に建設された赤レンガ倉庫(旧陸上自衛隊十条駐屯地275号棟)と新築部分を一体化した、愛称「赤レンガ図書館」。平成21年度グッドデザイン賞を受賞。



旧古河庭園
鹿鳴館の設計を手がけたジョサイア・コンドルによる英国ルネサンス風の洋館と洋風庭園、京都の庭師・植治の手がけた日本庭園と美しい調和を生み出している。



ふるさと北区 区民まつり
毎年秋に区内産業と文化の振興、ふるさと北区の実現を目指して、王子・赤羽・滝野川の3会場で開催。地元中学校の楽器演奏や飾りのステージがまつりを盛り上げ、ヒーローショーなどの子ども向けイベントや露店・地方産展、フリーマーケットなど、多彩な催しを楽しむことができる。



田端文士村記念館
田端は、上野の東京美術学校(現・東京藝術大学)で学ぶ芸術家や、芥川龍之介・室生犀星を中心に文士が集ったことから、館内に文士芸術家村となった。館内には、ゆかりの作品が展示され、当時を知ることが出来る。